

マリアは突然「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる」と言われて慌てたでしょう。しかし、これは神様の働きによることで「親類のエリサベトも年を取っているが、男の子を身ごもっている。もう6か月になっている」と言われて、そんなことが本当に起こっているとすれば、神様からの知らせかもと考えて、「わたしは主のはしためです。お言葉通り、この身になりますように」と言いましたが、急いでエリサベトを訪問したと39節に書かれています。

「わたしは主のはしためです」の「はしため」デューレーは、奴隷の女性形です。日本語では、「端女」と書きます。組を組んだ時に数に入れてもらえなかった余りの女の意味です。年齢や背の高さで2人1組の組に出来ないとか、組み合わせがうまくいかず奴隷の仕事も回ってこない、それは幸いなことではなく、生きてゆけないことを意味しました。神様はエリサベトを用いて偉大な仕事をさせようとしておられ、自分にも働きかけておられると理解した時、マリアは自分が人間の屑として生きているのではなく、神に生かされている人間だと理解できて、感謝と賛美を捧げたのだと思います。

コメディ映画でペイトン・リード監督、ジム・キャリー主演の「イエスマン」という映画があります。友達に自己啓発セミナーに連れて行かれ、何でも「YES」としか答えない約束をさせられてしまいます。どんな頼まれごとにも「NO」とは言わないで「YES」と返事をするようになって、人生が全く変わったという話です。私も同じような経験したことがあります。YESと言って後悔したことはありませんが、NOと言って後悔したことは数え切れないほどあります。

マリアは、天使の言うことに「ノー」と言いたかったが、「イエス」と言って自分の身に起こることを受け入れました。勿論、すんなりではなく、エリサベトに起こったことを見て確認することを必要としました。考えず、悩まず、確認もせずではなく、戸惑うこと、考えること、疑うことをして、その上で自分の考えやこれまでの経験だけを絶対化して「そんなことはあり得ない」「いやだ」と主張するのではなく、神様に判断の王座を明け渡して受け入れることも偉大な人生や、チェンジには必要なことです。イエス様の言われることには何でも「イエス」と言おうと決めて聖書に聴き始める時、私達も新しいマリアやヨセフになることが出来るのです。マリアとヨセフを尊敬するだけでなく、同じようになることを神様は求めておられます。